



神奈川県歯科医師国民
健康保険組合理事長 小澤 孜

年頭のご挨拶

新年おめでとございます。平成26年の年頭にあたり、被保険者の皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は記録的な猛暑、想定外の局地的な豪雨、竜巻被害など異常気象による災害が頻発した年でありました。被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

国保組合は、国民健康保険制度の中であって、国が市町村に対して事業主に代わる国庫補助をしていると同様に、国保組合に対しても市町村とのバランスとして32%の定率補助を受けております。

本年4月から医療保険部会などで、「保険料に係る国民の負担に関する公平の確保」ということから、所得水準の高い国保組合に対する国庫補助の見直しが議論されることになっております。

所得水準については、本年に予定されている被保険者の所得調査の結果によって設定

されることと思えます。残念ながら歯科業界は氷河期のままであり、この調査が所得水準に正しく反映されるよう、所得調査にご協力いただきたく存じます。

24年度は保険給付費が予算を超える額となつて、財源確保のために1億円の増額補正をいたしました。25年度においては、月額組合員千円家族500円と、最小限の値上げ

をさせていただきます。今後とも、被保険者の皆様が安心してお過ごしいただけますよう、安定した組合運営に努めてまいりますので、何卒よろしくご願ひ申し上げます。次第でございます。

をさせていただきます。お蔭様で安定的に医療の給付ができております。これからもより良い給付と相応の負担の在り方を検討してまいります。



神奈川県歯科医師
信用組合理事長 後藤 哲哉

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

平成26年の初春を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

平素から組合員並びに会員の皆様にはご支援とご協力を頂き、役員一同心から感謝

申し上げます。当組合では、中期経営計画（平成25年度～平成27年度）で掲げた3つの基本方針の一つである、収益基盤の構築の一環として、本年5つに営業

店業務の集中化、人員配置の見直し等により、先生方に対する



株式会社神歯信栄サービス
代表取締役社長 西野 一紘

新年を迎えて

年頭に当たり皆様には幸多き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年4月より本会は一般社団法人として新たな出発をいたしました。会員の福利厚生事業の柱である福祉共済制度もそれに伴い刷新されました。制度の柱として自主運営されてきた入院給付金は団体医療保険の形で損保会社へ委託され、その代理業務を弊社

が引き受けすることになりました。本会と表裏一体となつて、創立以来お手伝いをさせて頂いている弊社事業は今まで以上に会員の福利厚生、医業経営により大きな役割を担うことになりました。弊社の責任がより一層重くなつたと受け止めております。

超高齢社会を迎え、我が国においても福祉国家を維持することが次第に困難さを増し一同、より一層の努力をしてみたいので何卒ご理解をお願い申し上げます。

今後、当組合の理念である「相互扶助」の精神を堅持しつつ、足元が揺るがぬように安全・安心を確実に推し進め先生方のご要望にお答えしていく所存でございます。最後に、本年も変わらず、関係各位のご支援と協力を賜りますようお願い申し上げます。幸とご健勝を祈願し、初春のご挨拶とさせていただきます。

する利便性の向上や組合経営の合理化及び収益基盤の確保を目的とし川崎支店を本店へ並びに相模原支店を平塚支店へ統合することとなりました。店舗統廃合後におきましても地域の金融機関として先生方のお役に立つよう、役員

ている今日、私たちは自らの老後を国の制度に全て委ねるわけにはいかないことに改めて気づき始めています。片や、世界に目を転じると試行錯誤の後に窮極の選択として辿りついたはずの資本主義社会は、格差社会をますます増幅し、人々が等しく分かち合うべき基本的な機会の平等さえもが失われようとしています。人類の叡智は、歴史の頁が増えるにつれて蓄積されていくのでしょうか。百年前、いや千年、2千年前の人間と比較して真に賢くなっているのでしょうか。神、信仰、宗教などという形而上学的な精神世界が、人類を他のすべての生物から一線を画し頂点に立つ生き物と自負して地球に君臨する一方、他方では次々に自らの地球環境を破壊し、互いに相容れない信仰の違いが果てしない争いを生んでいます。一日も早く安寧な日々が来ることを希求してやみません。